

人生の最高点はいつでも今だ

手袋を はめて 頑張っている。

「しかし、めしを食わねば」と
中断して 下に降りる。

済めば すぐ様、部屋に戻り、
今度は 寒いので 床に入り、続ける。

ふと 周りに 気が向くと
窓の外が だいぶ うす暗くなっている。
それに 気付くと 急に 手元が 見にくく感じ、
明かりをつける。

「もう 少しだ、頑張れ。」
自分に言い聞かせ、再び やり出す。

延々六時間、ついに遅れを取り戻す。

しかし、 頭には どれだけ 詰め込めたか 疑問。
こう言うものは 一夜漬けで やるものではない。

だからと言って、あきらめて、
初めの計画を変更する気持ちには なれなかった。

下にゆき、余裕で テレビ。
夕食をし、八時頃、部屋に戻る。

今日、もうする事ないので、いや何もする気がないので、
小学校の時の写真と日記を取り出して見ている僕だった。